

巻頭言

支部長 中村 博和

コロナ禍で多くの予定が中止に追い込まれましたが、オリンピック開催に伴い7月の夏山好機に大型連休が生じ、会員山行にて中央アルプスを8名の大所帯（1名途中下山）で前夜現地泊＋山中3泊テント（一部避難小屋使用）縦走を完了出来たことは支部の歴史に残る快挙でした。詳細は本号に記事掲載されておりますので是非ご一読ください。

4月の総会にて役員体制が変わり月1回の役員会をzoom開催にしたこともコロナ禍の変化でした。現役の若い役員も増えたことから皆が平日18時半に集まるのは困難であり、折しもリモート会議



題字・牧野衛 背景・有元利通

公益社団法人

日本山岳会
静岡支部会報

2021(令和3)年秋季

第90号

が世の中の趨勢になってきたことも後押しし、事務局IT担当小嶋さんの指導の下、すんなりと移行出来ました。会報の編集会議も同様にリモート移行しています。本部と支部の連絡会議もリモート参加となり東京に向く負担が軽減されました。しかし全国規模の日本山岳会の良さである全国支部懇・4支部交流会・晩餐会などが中止になってしまったことは会員でいることのメリットを享受出来ず、費用対効果を考える方も出てくるかもしれません。残念なことに支部においても11月恒例の懇親山行が今年度は中止となってしまいました。山岳会に所属する者はおしなべて趣味を同じくする岳人との生の交流を目的の一つとしているはずで

目次

★巻頭言	支部長 中村 博和	1
★個人山行1	「南アルプス高山植物観察山行」	
	伊東 見奈子	2
★会員山行1	「四阿山・根子岳の雪山登山&山スキー」	
	(G) 前田 有美恵	5
★会員山行2	「遠州・岩岳山」	
	海野 俊久	6
★第1回 ハイキングセミナー	「突先山く大山へ」	
	原田 裕子	8
★会員山行3	「信州大室山に登る」	
	有元 利通	9
★個人山行2	「北岳トレーニング山行」	
	中村 博和	11
★会員山行4 合宿山行	「中央アルプス全山縦走」	
	諏訪部 豊	12
★個人山行3	「夏の思い出」	
	中野 雅章	16
★村山古道に関する講座		
	小嶋 香織	18
★文珠山荘便り		
	山崎 洋	18
★インスタ開設とHP更新		
	小嶋 香織	19
★会員動向		
		20
★訂正		20
★編集後記		20

この原稿を書いている9月末時点ではワクチンの急速な普及もあり感染者数は減少傾向です。会報が皆様のお手元に届く頃には行動制限が解除され、皆様と対面で語り合える日が来ていることを切に願ひ巻頭言とさせていただきます。



個人山行

①

「南アルプス高山植物観察山行」 (千枚岳・荒川三山とお花畑)

伊東 見奈子

2021年7月31日から8月2日にかけて、初心者ながら支部の自然保護担当として、南アルプス高山植物観察をする機会を得ました。その報告をします。

初日はリニア建設のため大型トラックが行きかう道を畑薙ダムから樫島ロッジへ。そこでさらに奥まで入るための鍵を借り、先にある門まで進みます。すでにここまでの道のりも奥深い自然の中ですが、この門の鍵を開けさらに道は続きます。通常でしたらこの道のりは長い登山の始まりですが、今回は高山植物の観察がメインの為、車で一気に駒鳥池駐車場

まで上がります。舗装されていない道には走行の邪魔になる落石が至る所にあり、走っては車を止め、道の真ん中にある落石を取り除きの繰り返しで前へ進んでいきます。

途中で車のマフラーが外れるアクシデントに見舞われながらも、そこはベテラン登山者たち。背負子についていたわずかな針金を流用して応急処置をし、車は進んでいきます。

マフラーが再び外れないかははらしながら駒鳥池駐車場に到着です。ここからザックを背負い山歩きが始まります。1時間ほど歩くと初日の宿、千枚小屋に到着です。到着前にひと雨降り、着いた時には少し濡れていました。

今年の南アルプス南部はどこも小屋の営業が行われていません。本棟横の避難小屋(その名は百枚小屋)へと早々に入り、一息ついたら夕飯の準備です。ここまでの道のりでは一輪だけのミヤマキンポウゲと群生しているマルバダケブキを見ただけでした。

翌日からの自然観察に備え早めの就寝を考えていたところ、避難小屋に先着していた方々がおもむろに巨大なタモ(捕

虫網)を持ち、出かける支度をはじめました。声を掛けてみると、この地域の昆虫生態調査を行っている一行で、クモやハネカクシなど昆虫類の専門家の方々でした。これから採取に出かけるとのこと。この地域はまだ昆虫生態の調査が進んでおらず、どんな昆虫がどのくらい生息しているのか未調査の為、静岡県から依頼を受けたそうです。高山植物だけでなく、こういった昆虫の世界も広がっているのだという面白い話を初日から聞くことが出来ました。

2日目、朝4時21分。朝焼けに浮かぶ富士山を横目に千枚岳に向かいます。前日は気づかなかったタカネグンナイフウロがちらつと見えました。

さあ、千枚岳に向かいます。小屋をスタートして少し上ると森林限界を超えて一気に視界が開けます。イブキジャコウソウの香りや、ミヤマムラサキのきれいな水色を見てはしゃぎながら晴天の山頂を目指します。山頂からは北に間ノ岳、塩見岳、蝙蝠岳。西に悪沢岳、南に赤石岳、そしてその奥にある南アルプスの山々、東には富士山も絶景です。

千枚岳から続く丸山までの間にも、ミ

ネウスユキソウ、タカネナデシコ、ハクサンフウロなどが咲き、タカネビランジの白や淡いピンクの優しい色合いに癒され、タカネマツムシソウの華やかさに目を奪われます。ミヤマダイモンジソウ、チシマギキョウ、タカネコウリンカ、赤や黄色のイワベンケイなど、様々な高山植物が現れ、名前を一つ一つ教えてもらいます。



タカネマツムシソウと赤石岳

丸山山頂では眼下にリニア中央新幹線の工事が計画されているコースを確認し、本当にこのコースにトンネルが出来てしまったら、今咲いている高山植物は一体どうなってしまうのか考えさせられました。

丸山で、今回の山行を計画して下さった白鳥さんとはいったんお別れし、悪沢岳へ向かいます。悪沢岳から少し下ったところで、それまで青空だったところにガスが出始めたところ、オスの雷鳥に遭遇。小ぶりではありますが、ハイマツの中を泳ぐように進んでいく姿をみてうれしくなります。薄いガスの切れ間には鞍部へ下った先から荒川中岳への稜線が見えます。

す。足元ではタカネヒゴタイが星を散らした様な花を咲かせています。苦しい登りがあってもここは様々な高山植物を見つけないが歩くことで、疲れをあまり感じません。

荒川中岳頂上付近にある保護されたクロユリの群落を観察して2日目の宿、荒川中岳避難小屋へ到着。大きな荷物を置き、身軽になって荒川中岳から荒川前岳にかけて続く快適な稜線歩きです。左奥には赤石岳の堂々とした山容が見えています。

今回は前岳との分岐から荒川小屋に向かう途中にあるお花畑での高山植物観察がメインとなるので前岳へは寄らずお花畑へ行くつもりでしたが、ここはやはり荒川三山の制覇と行きたくなり、前岳へ

寄り道です。山頂の西側は大きく崩れ、巨大なスプーンでえぐり取られてしまっただかの様。足を一歩前へ出したら崩れるのではないかと思ひながらも怖いもの見たさに崖の下をのぞき込みます。年々崩れているこの場所に立っていると今見ている景色は数年後には変わっているのかもしれないなと思いました。

さて再び分岐に戻り、ここからが本日の本題、お花畑の観察です。目の前には赤石岳への道が続き、カールが広がっています。よく目を凝らすとかなり広い範囲が防鹿柵で囲われています。標高2600mを超えるこんな場所でもニホンジカが侵入してくることに驚きを感じます。防鹿柵は毎年初夏に設置をし、冬前には片付けるそうです。急な斜面をみると、なんて大変な作業なのだろうかと思像出来そうです。

いよいよ柵の内側に入ります。少しずつ花の種類が増えてきました。柵の外ではどれだけ植生が違ふのでしょうか？最初はそれほど大きな差がないのかと思いましたが、次々と花が迎ええてくれます。ハクサンチドリ、ミヤマタンポポ、ミヤマシシウド、ムカゴトラノオ、タカ

ネヤハズハハコ、バイケイソウ、ミヤマオトコヨモギ、ハクサンイチゲ、ミヤマダイコンソウ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンフウロ、ウサギギクなどなど。本当に多くの花が咲き乱れ、1日見ていると飽きそうにあります。ふと目線を上げると奥に防鹿柵が見え、こんな手つかずの自然の中に少し不自然さを感じます。けれど、このような自然保護活動なくしては、この素敵なお花畑を守ることが出来ないことも事実なのだと思います。

さて気を取り直して今回は荒川小屋に行かず、防鹿柵を出て少しのところにある水場で水を汲みます。ちよろちよると出ている貴重な水を汲みながら食べた林檎がおいしかった！

そろそろ中岳避難小屋に戻ります。再びお花畑を通過し、名残惜しい気持ちでカールを見下ろしますが、のんびりはしてられません。午後を過ぎるとすごい勢いで雲が発達してきたため、雷が発生しないようお願いながらとにかく前へ進みます。中岳避難小屋へギリギリ雨に降られず到着。

標高3080mの場所にある避難小屋

の中で雷をやり過ぎ、夕方、雨上がり
に外に出てみると雲海と上空の雲とに挟まれた青空の間に雲海側から何本もの雲の柱がよきによきと湧き上がる様子にしばらく見とれます。

3日目、4時20分。外の景色はただただ山々のシルエットが浮かび上がります。月と藍色の空と朝焼けと雲海のグラデーシオンは絶景です。そして私たち以外ここに誰もいない贅沢な時間です。こんな場所が静岡県にあることを嬉しく思い、前日来た道を戻り始めます。朝のきれいな景色に何度も足を止めながら歩きます。稜線にはシコタンソウやタカネツメクサが至る所に咲いています。一見地味に思えがちですが、他の花が少ない場所でも岩の間や稜線に咲いて進む道を飾ってくれます。

この日も快晴で周囲の山々がよく見えます。1週間前に静岡支部の山行で歩いた中央アルプスもその全容が見え、3泊4日での出来事を思い起こします。

丸山山頂から少し下ったところで帰りにも出会えました。メスの雷鳥と雛数羽です。昨日見たオスの家族でしょうか？ちなみにオスは子育てを一切しないとの

こと。

帰り道、昨日白鳥さんから教えてもらった場所に咲くタカネマンテマを再び見て。「また会いに来るね」と心の中で呟き、千枚小屋へ戻り白鳥さんと合流して帰路につきました。

今回初めてこの山域を観察しましたが、実際に見て感じることできとでもよかったです。今でも十分に高山植物が咲き乱れ素敵な場所です。しかし実際には防鹿柵の中と外では生息している植物の種類や量が違うことをみると、やはり保護をしていかなければ植生が変わってしまうのだらうと思います。鹿によることだけでなく、気候の変化など様々な要因できつと数年前の南アルプスと比べても違うのではないのでしょうか。

この先何年もこの景色を見ることができると、登山をたのしみながらも残していくことのお手伝いができたらまた違った形で自然とかかわっていけるのかもしれません。

今回ご一緒して下さった皆様ありがとうございました。来年はぜひ千枚小屋周辺に咲くというオオサクラソウも見に行きたいと思います。

 会員山行

①

「四阿山・根子岳の雪山登山&山スキー」

2021年2月6日(土)〜7日(日)

前田 有美恵(ゲスト)

赤堀さんに雪山山行に誘っていただいた時、日本山岳会という名前はもちろん聞いたことはあるものの、私からすると畏れ多いし、様子がよくわからなくて不安な気持ちも強くありました。でも誘っていただいていたうれしく、また雪山への憧れがまさり、会員でもないのにいいのかなと思いつつも初めて参加させていただくことにしました。

2日間ともまれに見る好天に恵まれ、素晴らしい雪山景色を堪能することができました。また参加者の皆様がよい方ばかりで、初参加の私にいろいろと心遣いをしてくださったので、不安な気持ちも払拭でき、2日間を楽しく過ごさせていただきました。心から感謝しております。そうした中で、登山リーダーの中村さんから、フレッシュな感覚で感想を書いてと依頼された時、「全員が何らかの形で感想を書くのだろう、二言三言の簡単なものなら大丈夫だろう」と軽い気持ちで聞いていました。帰りの解散式で、諏訪部さんから感想文のことを正式に依頼されたときに、周りの方々の反応を見てどうもそんな簡単なことではないらしい、全員ではなく私だけが書くことになったらしいと気づいたのですが、今更後に引けず、感想文を書くことになりました。勝手にわからず戸惑うばかりですが、お世話になったお礼の気持ちを込めて、感想を記します。

一日目は四阿山。早朝に道の駅「とみざわ」に集合、ほとんどの方が初対面で緊張する。参加者は12名。20歳代から80歳代まで年代も幅広く、会員の層の厚さを感じる。皆さん、屈強に見える。迷惑かけないようにしなくてはと気の引き締まる思いがする。3台の車に分乗して一路菅平高原へ。途中の交差点で登山班とゲレンデスキー班に分かれる。駐車場到着後登山班8名は早速スノーシューを装着する。私は貸していたで装着の仕方をおぼろげながら、バンドをきちんと締めるのはなかなか難しい。歩き始めてすぐに外れてしまいやり直し。皆を待たせることになってしまつて申し訳ない！最初は

別荘地の中を歩き、その後牧草地に。雪山だし、標高も高いから寒いに違いないと思ってきたが、太陽に照らされて歩いているうちに暑くなってくる。抜けるような青空、真っ白い雪の上にすつくと立つダケカンバ、そのまま絵はがきになりそうなくらい素敵な景色である。スノーシューがないと足が潜つてしまつて歩きにくいとのこと。せっかくなので、新雪の上を歩いてみる。誰も歩いていない新雪の上に自分の足跡をつけるのは楽しい。しかし、傾斜がきつくなつてくると足の運びも遅くなつてしまう。山頂に近づくにつれどんどん厳しくなり、少し歩いては一休みを繰り返す。ここまで来たら山頂を踏まない手はないと励まされながら最後の一踏ん張り。やっと山頂に到達。360度の展望が広がる。素晴らしい！北アルプスの名だたる山がずらり。中村リーダーが山の名前を教えてください。白馬三山、火打、妙高、戸隠、槍、穂高、中央アルプス、浅間山、湯の丸山、妙義山、富士山も見える。山頂から富士山まで見えるのは珍しいとのこと。ビギナーズラックかも。「これ以上ない好天だから初参加の私を何とか頂上に立たせてあ

げたかった」と言われて、その心遣いに感謝感激。こんなに素晴らしい景色を見るとまた来てみたい、ほかの雪山にも行ってみたいと欲が出てきてしまう。でも、いつもこんなにお天気がよいとは限らない。天気が悪くて撤退ということもよくあるそうだし、厳しい天候の中で苦勞することも多いとのこと。本日に今日はラッキーだった。下りは元来た道を戻っていく。今夜の宿は菅平ダボスタカシマヤ。夏はラグビーの合宿でよく使われるところだそう。入浴後おなかいっぱい夕食をいただき、その後部屋に戻って二次会。自己紹介を聞いていると、すごい経歴の人ばかり、それぞれお話がもしろくて時間を忘れるほど。海外の山を初登頂したお話や、危険をくぐり抜けたお話など驚いてしまう。続いて、歌の時間。いろんな山の歌が途切れなく繰り出され、またまたびっくりしてしまふ。

二日目は根子岳。昨日よりは山並みがかすんでいるけれど、今日もお天気は良い。途中の避難小屋で少し休憩して山頂を目指す。登頂後全員で記念撮影。山頂は風が強いのでゆっくり休憩していられない。早々に下り始める。長い下りの始



根子岳山頂にて

まり、スノーシュー慣れしていない私は知らないうちに離されてしまい、会員の方々との力量差が歴然。疲れてくると足幅が狭まってスノーシューの一方を踏んでしまったり、つんのめってしまったり。ついにはスノーシューが外れてしまった。しかし、白鳥さんほかベテランがしっかりとサポートしてくださって心強い、おかげさまで無事に下山。四阿山や根子岳は樹氷やスノーモンスタースタが見られることでも有名らしいが、今回は暖かすぎてモンスタースタは融けかかっていた。木々に雪が降り積もっている光景はたくさん見

ることができて、それはそれでとてもきれいだっただけれど、次の機会には樹氷やモンスタースタ群も見られたいなと思う。皆様のおかげで、減多に見ることのできないすばらしい雪山の景色を心ゆくまで楽しむことができました。ありがとうございました。

参加者…諏訪部、中村、仙石、岩崎、

山崎、小嶋、白鳥、八木、小川恕、

増田治、赤堀(会員11名)、

前田(ゲスト)



②

「遠州・岩岳山」

海野 俊久

2021年5月9日(日)、6:50に静岡市下の道の休憩所に集合、途中、藤枝PAで合流して、会員14名で第二東名と県道を2時間余りかけて、遠州七不思議の一つ京丸ボタン伝説の山、岩岳山(1369m)へ向かった。

8:39ゲート手前の駐車場に到着したが、すでに多くの車が停められていた。会員相互の挨拶後、8:53出発。荒れた

林道を3.5キロ歩いて山の神やトイレがあるゲートに9.59到着した。この林道は下りとなっており、途中大きな落石があった。

ゲートをくぐり、定員3人までの崩れかけた丸太の橋を1人ずつ渡った。木の根の張り出した急坂を登り、スギやヒノキの植林地の登山道を歩いたが、山ヒルに好かれた会員がいたようであった。

11.54に荷小屋峠に到着。見通しはあまり良くなかったが、それでも長い稜線が眺められた。峠から尾根を登ったが、ヤシオの木が目につきはじめた。自然林の急峻な尾根道で、岩場にはロープがかけられよく整備はされているが、注意が必要である。

12.46に岩岳峠の稜線に出た。峠から岩岳山へは、やせ尾根の岩だらけの箇所があり足元をよく見ることが必要であった。13.15に岩岳山に到着。山頂には、苔の生えたテーブルと椅子が2か所設置されていたが、一つは椅子が崩れていた。そこで昼食としたが、風が強く肌寒さを感じた。山頂では4人の登山者とあったが、駐車場の駐車台数と比べ、登山中に会った人は少なかった。岩岳山のプ



岩岳山山頂の集合写真

レートの前で集合写真を撮り、下山は入手山経由で駐車場へ戻ることにした。

13.40に岩岳山を出発。入手山までの稜線西側は、「アカヤシオ及びシロヤシオ群生地」となっており、シロヤシオが多数咲いているのが確認できた。その中にミツバツツジが真っ赤な色合いで映えていた。アカヤシオは、わずかであったがピンク色の花を見ることができた。入手山を14.33に通過し、キマタ山には14.58に着いた。この間は、シロヤシオがびっしり花をつけている個所があり目を楽しませてくれた。

キマタ山からは、岩場やザレ場があり

気を抜けない箇所が多くあった。危険箇所にはロープが設置されており整備されているが、注意深く通過する必要がある。登山道を下っていくと一旦林道に出るが、すぐに登山道に戻る。鉄塔をすぎ、建物脇のフェンス沿いに進むと林道に出る。あとはその道を歩き、16.30に駐車場に戻った。駐車場には、我々の車のほかに1台残っているだけであった。

今回の会員山行には、3名の80歳代の会員が参加したが、ザレ場では他の会員に歩き方について声をかけていただくなど、適宜指導していただき非常にありがたかった。そして何よりも山歩きを大いに楽しんでいるように見え、他の会員を和ませてくれました。

岩岳山は、登山道に岩場やザレ場など危険箇所が多い急峻な山で、また交通の便が悪いことからマイカー利用となったが、登山中及び行き帰りにおける車のトラブルもなく無事山行が出来た。有元リーダー、そして会員の皆さんお疲れさまでした。

参加者…有元、白鳥、長野、諏訪部、

仙石、中村、木村、赤堀、小嶋、
原田、中野、篠原、海野、井上

第1回ハイキングセミナー

「突先山〜大山へ」

原田 裕子

2021年5月16日(日)、天気予報は曇りのち雨(40%〜70%)。雨が降ることを前提として、雨具はもちろんのことザックカバー・ストック・グローブ・タオル・スパッツ・傘(林道・車道歩き用)と雨対策を万全にして出かけた。今回も運動不足の娘と一緒に参加。娘は今回で4回目の参加である。

静岡駅前より、美和線「奥長島」行7・37発のバスにて出発予定。小雨がぱらつき始める中、バス乗車の点呼をとるが、全員揃わず。バス発車の時間が迫る中、慌てて連絡をとる。2名は直接奥長島まで行くとのこと。全員揃ってバスに乗車。そして50分ほどバスに揺られ、奥長島終点のバス停で下車。

トイレ休憩後、支部長挨拶・自己紹介・靴紐の結び方や歩き方・現在地の確認・地図の読み方やコースの説明等いつもの盛り沢山のレクチャーがあった。山頂が雨のことと考えて出発地点にて集合

写真を撮り、準備体操をして登山モードに入る。目指すは1022mの突先山だ。30分ほど歩き眼鏡橋登山口へ。茶畑の中を横切るように進み、杉林をひたすら登り、壊れかけた木橋を渡り、いくつかの沢を渡り、釜石峠へ。峠からは熊笹の稜線コース、いくつかの急登が続く、そしてようやく突先山山頂へ。晴れていれば木々の間から南アルプスや富士山が見えるはずだが、残念ながら見えず。次回は晴れの日に来てみたい。

山頂にて昼食休憩・集合写真を撮り、次なる目的地984mの大山へ。突先山山頂からは樹林帯を抜け林道へ。前方に大山の電波塔が見えてくる。そのまま林道を進むと大山山頂に到着。山頂からは静岡市内や駿河湾や日本平がくすかに見える。木製のテーブルと椅子があり、ここでは装備やバックキングについてのプチ講座があり、セミナー生も会員も領きながら聞き入っていた。最低限必要な物は何か、またあったら便利な物は何か、どんな時にどう使うか等、いつもとても参考になる。

計画より少し遅れて大山山頂より下山開始。途中小雨に何度か降られることも

あったが、またわが娘の日ごろの運動不足によりペースダウンしバスの時間に間に合うか心配されたが、何とか全員無事バスの時間に間に合うことが出来た。途中、少しくじけ気味の娘に、皆さんの温かい言葉がとても嬉しかった。

雨の登山と言うと、滑りやすい・霧で視界が悪い・濡れて不快とネガティブなイメージが強いが、支部長より、「山に雨はつきものです。雨の日の登山は、晴れている時とは匂いも、音も、景色も、全く違った『山の良さ』を楽しむことが



突先山山頂で集合写真

出来ます。」とあった。確かに、雨の中の濡れた木々や霧は幻想的に映り、写真に撮ってもとても綺麗だ。普段見られない景色を見ることが出来る。雨を楽しむことは山を楽しむことの一部であることが頷ける。

小雨の中、地面は滑りやすく柔らかい。晴れの日との違いを感じた。長い急傾斜もあり、木々の中であまり眺望もなくひたすら続く杉林あり、なかなか歩きごたえのあるコースだった。運動不足の娘には少々きつかったらしく次回は体力をつけて参加する、と心に決めたようだった。やはり日ごろから体力づくりは必要である。

静岡には、富士山や南アルプスをはじめ、体力を要する山歩きや藪山歩き、海岸沿いや茶畑を行く里山歩きとさまざまな登山が楽しめる。また、春の山、夏の山、秋の山、冬の山、とその季節ならではの良さ、雨の日、晴れの日と天候で感じる良さを楽しめる。この温暖で自然に恵まれた静岡をもっと知りたい！感じたい！登りたい！と改めて思った。まだまだ私の登山は始まったばかり。この先どんな『山』に出会うことが出来るのか

考えるとワクワクしてくる♪

参加者

セミナー生…(13名)

会員…赤堀、有元、木村、小嶋、諏訪部、

中村、平井、八木、原田(9名)



③

「信州大室山

(1147・2^{メートル})に登る」

有元 利通

始まっている「大室山」シリーズ！大室山という山はいくつあるのか？

【解説編】

「コンサイス日本山名辞典修訂版」では4座挙げである(略記する)。

① 神奈川・山梨県境、北丹沢の山(大

群山・富士隠し) 1588^{メートル}、

② 山梨県旧上九一色村、富士山の寄生

火山 1447^{メートル}

③ 長野県旧小県郡東部町(現東御市)、

鳥帽子岳の円錐状寄生火山 1147^{メートル}

④

静岡県伊東市、天城山の寄生火山 5

80^{メートル}

一方、「日本山名事典改訂版」では7座挙げがっている。前記の4座の他に

⑤ 茨城県日立市の427^{メートル}の大室山。

⑥ 茨城県太子町の275^{メートル}の大室山。

⑦ 山梨県山梨市の899^{メートル}の大室山。

白山書房「日本山名総覧」では、⑦を除く6座が挙げられている。

【実践編】

静岡支部会員山行として最初に登った大室山は②の富士山の側火山の大室山で2018年4月21日、若き大島わかなさんの希望に応じて登り、火口まで降りたものである。二番手に登ったのが、①の丹沢の大室山である。2019年4月21日のことで山梨側から登った(偶々前年と同日であった)。そして、三番手が今回、2021年5月30日に実施した、③の信州大室山である。

【詳報編】

5月30日、8名の支部会員がR52号【道の駅とみざわ】に午前6時前に集合した。諏訪部、有元の2台の車に分乗して信州大室山に向けて出発。

さて、今回我が目指した大室山は我らJACC会員が手分けして調査、執筆、編集した「新日本山岳誌」にも未掲載の

謎の山、不遇の山なのである。インターネットで調べても一人歩いた記録がアップされているのみの山なのである。そして、ルートは明瞭とは言えない。

直ぐ南西麓には信州大の農場があるが、参加者の原田さんはこの山の北東側の農場等で25年位前に働いていたと言うのだ！何と！ナント！である。

取り敢えず、ネット情報で「境界見出標に従って尾根通しに下ったのが分かりやすかった」というルートを選んで東御市の金原川沿い「東入」という集落を目指した。普通ならスムーズに到着するはずであったが、高速出口でETCトラブルがあり若干遅れて登山口近くに着いた。幸いなことに晴天で目標の山も大体のルートも確認できた。いざ、出発である。見たらブッシュがある。道無き道を行くのである。有元の腰ベルトには鋸と剪定鋏がぶら下がり、手には支部の木鎌を持ち、ストックは後ろの諏訪部氏に預けて茨や草を払いながら登っていく。

幸い境界見出標が比較的拾いやすく尾根通しに登っていった。スタート地点から山頂までの標高差は約187mなのである。山頂に近づくと傾斜が緩やかで広

いたため三角点ピークが直ぐに見つからず小嶋さんがスマホを見ながら「この近くです。もう三角点と被っています」と言うので探すと半ば埋もれて上を赤く塗られた三角点標石が見つかった。9時40分記念写真を撮った。登頂祝いの握手は肘タッチに代わった。ピークハンターの私としてはまた一つ1000mピークが得られて喜んだ。ところが、また盛り上がりつつある。何が？半袖の諏訪部さんが茨や山椒等で引く掻き腕に血が！（ちよつとオーバー）しかしだ、藪漕ぎ、

藪山であることが分かっていて半袖とは如何なものかと思うのであった。下りは最近伐採と植林のために作られた林道が山頂近くまで延びていたのでこれを下った。ハルゼミの音を聞き、キジの声、ウグイス、カッコウの声を聞きアヤメを愛でながら10時40分、駐車地点に下った。

時間があるというので諏訪部氏案で湯ノ丸峠に向かった。11時過ぎ、峠の駐車場に着いた。一息入れて、ゲレンデから湯ノ丸山に向かった。11時40分、東屋の所で昼食休憩を取った。この辺りから山道になりムシカリの花を眺め、所々に咲いているイワカガミ、シヨウジョウバカ

マ、ミネザクラ？等を見ながら登った。12時45分、湯ノ丸山南峰に着いた。風は強い。集合写真を撮った。私としては2017年8月以来の山頂であった。風を避けて岩陰に休憩した。休んだ後、7名は北峰へ行き、私は下って途中の東屋で待った。皆で下って様々なアイスクリームを食べて帰路についた。今回も大事故も無く2000m峰を駄賃の山としてゲットして帰宅したのでありました。

参加者…有元、諏訪部、仙石、中村、山崎、赤堀、小嶋、原田



湯ノ丸山南峰にて

個人山行

②

「北岳トレーニング山行」

中村 博和

2021年7月16日(金)夜立ちにて翌週行く予定である中央アルプス縦走前哨戦にて北岳に向かった。北岳には高校1年生の夏合宿以来何度も通っているが、今回は最高の天気恵まれ、念願であった肩の小屋にてテント泊も楽しむことが出来た。何度登っても魅力の尽きない山である。

そもそも7月初旬の西穂高計画が悪天候で中止となり、コロナ禍で身体もなまっていたことからトレーニングと高度順化の必要性から計画された。幸い梅雨明けのタイミングをバッチリとらえ、その目的以上に楽しむことが出来た。夜半に到着した芦安駐車場は無料で、トイレ近くの草地にテントを張ることができ快適であった。赤堀さん提供の「高砂」諏訪部さんお勧めの「久保田」で前夜祭をやって就寝。

翌朝予約済みの乗合タクシーにて夜叉神峠のゲート開錠とともに広河原に入

る。ロータリーはこれから登らんとする登山者でみるみる溢れ、下界とは異なる空気感はいつ来ても清々しい。ルートは大樺沢二俣から右俣へ。お花畑を楽しみつつ小太郎尾根に出ると庄巻の展望が待っていた。チングルマから始まり岩稜帯の高山植物のオンパレード。やはり北岳は花の山、きつい登りを登り切ったご褒美だ。諏訪部さんは自作の高山植物ハンドブックを作って配布するほどの気合の入れようで、花の撮影と解説に忙しい。私はテニ場確保が気になり一足先に歩く。案の定小屋のかなり手前からテントが並び小屋下のテニ場も広いスペースは既に取られている。我々は6人用テントを張らねばならない。かなり下まで降り、ドン詰まりに石をのければ張れるスペースを見つけた。程よく他のテントから離れ、お花畑に囲まれ富士山を真正面に望む好展望地だ。実は3度目にてようやく叶ったテント泊。過去2回は雨に祟られテントは持って行ったが小屋素泊まりにせざるを得なかった。

時間に余裕がある為、水場ハイキングも行った。テニ場からはかなり下るが斜面のお花畑が素晴らしい。力自慢の山崎

さんがプラティパス満載のメインザックを担ぎ上げてくれた。諸々準備は整い小屋で購入したスーパードライで乾杯。3000mのテニ場で飲むビールの味は格別であった。更に日本酒に焼酎と続きアルコールの廻りも早く夕食後はバタンキューであった。

翌日の最大の課題は両股分岐にて前回見つけた絶滅危惧種タカネマンテマを探すことであった。前回あったであろう場所には見当たらず時期が早いかと諦めかけたその時、又別の場所に小ぶりの株を数本発見し歓喜した。後は山頂を踏むだけだ。

登山者で賑う山頂では大展望のもと、年賀状用の撮影会が始まった。思いおもいの決めポーズでピークを満喫。

八本歯のコルから下る途中ではバットレス概念図が配られ実際に登っているクライマーを遠望しつつルート解説が行われた。諏訪部さんのサービスピ精神には毎回頭が下がります。行きでは数本だったミヤマハナシノブも沢山咲いており長い下山道での励みになった。予定では午後2時のバスに乗車するつもりであったが乗合タクシーにて予定より早く芦安駐車



④ (合宿山行)

「中央アルプス全山縦走」

諏訪部 豊

「全山縦走」は山脈の端から端までを



北岳山頂にて

一気に歩き通すことを意味し、強い憧れを感じる言葉だ。私には四〇才の夏に行った編笠山から蓼科山までの南北八ヶ岳全山縦走しか経験がない。しかし中央アルプスは少し頑張れば北の本曾駒ヶ岳から南の越百山^{こすもやま}までは全山縦走が可能だ（厳密にはもっと南の摺古木山^{すりこぎ}までを全山と言うのだろうか）。

私は数年前に南駒ヶ岳まで行き、そこから眺めた越百山までを歩きたいと思った。しかし越百山からは本曾側に下る道が一般的であり、そうすると伊那側に停めた車を回収するのが厄介だった。

その内にJAC会報「山」第八七号（二〇一九年四月）に地元の人たち（中央アルプス南部岳人ネットワーク）による越百山から念丈岳への登山道刈り払いの記事が載っていた。この道を通れば伊那側に下りることができる。また文末の「このルートの保全のためにもぜひ歩いて欲しい」との言葉にも動かされた。その記事に刺激を受けて昨夏（二〇二〇年）八月、支部の仲間合計四名で全山縦走を企てた。ついでの初日は新田次郎著「聖職の碑」^{せいしよくのいし}で地元の生徒たちが登ったのと同じ桂小場から西駒山荘経由で本曾

駒ヶ岳に向かうコースにした。既に梅雨明けしていたが二日目に強い西風と雨にたたられた。檜尾岳避難小屋^{ひのおきおたけ}での天気予報ではその後の天候回復も望み薄だったので三日目に檜尾尾根を下ることにした。そこで今夏はその続きをやらうと計画した。今年は合宿山行に昇格させて総勢八名での大部隊だった。

前夜、車三台で駒ヶ池トイレ前駐車場に集合した。ここで軽く一杯やった後、テント泊及び車中泊で一夜を明かした。翌朝、車は無料の駒ヶ根高原スキー場駐車場に停めた。

初日は朝一番の駒ヶ岳ロープウェイで千畳敷まで上がり、二班に分かれて行動した。A班は本曾駒ヶ岳と宝剣岳を登ったことのある会員であり、極楽平から三ノ沢岳を往復して檜尾岳に至り、檜尾岳避難小屋に向かうコースにした。B班は本曾駒ヶ岳に登ったことのない会員を主体とし、乗越浄土から本曾駒往復後宝剣岳を経て檜尾岳避難小屋に向かうコースにした。厳密に言えばB班だけが全山縦走ではあるが昨夏行きそびれた三ノ沢岳からの眺めと山頂直下にあると言う花畑の魅力が勝り、私はA班にした。

主稜線に戻り、極樂平から南に向かつて縦走を開始した。B班は既に極樂平を通過して檜尾岳に向かうという置き手紙があった。事前に分かっていたが高気圧の張り出しが弱く午後になって雲行きが怪しくなり、檜尾岳近くで雨が降り出

檜尾岳避難小屋はカマボコ型のかわいい小屋で、昨夏泊まって気に入っていたのだが今年は増築工事のために工事関係者が泊まっていて中には入れず、我々は小屋周辺にテント泊した。これは予定していたことなので問題はなかった。水場は檜尾尾根を少し下った所にあり、水道は蛇口を半分開いた程度の水量だった。なお檜尾岳避難小屋は、増築後は避難小屋ではなくて営業小屋になるとのこと。

二日目、小川会員は檜尾尾根を下るこ



熊沢岳を過ぎた辺りで雷鳥の親子に遭遇した。木曾駒ヶ岳山頂近くでは環境省による保護活動が行われているがこの親子は自然の状態での生息だろうか？木曾殿山荘では仙石、山崎、伊東の三名が木曾義仲の力水に水汲みに向かった。

空木岳への苦しい登りをこなして空木平避難小屋に下りた。本来なら空木岳直下にあるこぢんまりした駒峰こまほうヒュッテに泊まるのが楽だがコロナ渦で定員一〇名に限定していてこの日は既に予約で満員だった。

降り立った空木平避難小屋は近くに水量豊富な沢があつて水に困らない。定員二〇名程度でほぼ満員だった。他にテントが数張あつた。この日は、行動中は雨に打たれなかったが小屋で夕食宴会中の午後三時頃には前日同様に雨が降り出した。しかしそれも前日同様に午後五時頃には止んだ。

三日目は長丁場が予想されたので午前

四時過ぎに小屋を出発した。一時間掛けで空木岳に登り返し、稜線を南下する。赤あかき難岳を経由して南駒ヶ岳に到着した。



南駒ヶ岳山頂

トレランの男性がいて池山尾根往復日帰りとのこと。「南駒ヶ岳が好きなんです」と言っていたが空木岳まででなくてここまで足を伸ばすのは凄い！仙せんが涯嶺への道中で今朝越百小屋を出てきた登山者数名とすれ違う。

道中には細いバンド状の難所があると聞いていたが言うほどの所ではなく、天気も良いので今回のメンバーにとっては難所ではなかった。途中にはクロユリの混じる花畑があった。

しかしこの日も午後になると雲が湧き出した。仙涯嶺からは目指す越百山が雲間に見える。越百山を過ぎ、南越百山へ

の僅か一〇分ほどの道には驚ろかされた。それまでの花崗岩の明瞭な登山道がいきなり赤テープ頼りの道になったからだ。後で気づいたが越百山以南は一気に人跡が減っていたのだった。

南越百山は山頂部が花崗岩礫の平坦地だったがそこを過ぎると様相は一変し、隈くま笹の道になった。前述の「山」の記事に寄ればここは二〇一八年夏に刈り払ったことになっている。

しかし笹の勢いはそれをなかったことにするがごとく左右から覆い被さつてきていて不明瞭だ。遠目で笹が薄くなった場所を目掛けて進む。笹は所によつては胸までの高さになり、足を前に振り出し



熊笹の道

て道であろうと思われる隙間を探りながら一歩ずつ歩んで行く。しかし倒木や立木があるとルートが分からなくなり、正しいルートに戻るのに苦労する。また所々ある赤テープはなぜか肝心の所で途切れて頼りない。中村サブリダーが「これは南ア深南部ならぬ中ア深南部だな」とつぶやく。

後方にいる若手からのスマホのGPSを使った地図アプリによる情報が心強い。「ルートを外れていません」とか「そのまま真直ぐです」とか「直線距離であと四〇〇メートルです」とか。ちなみに私のスマホは越百山辺りで電池切れになつてしまった。

この日も午後三時を過ぎて雨が降り出した。急いで雨具を着るが雨粒が大きく、また笹の露で直ぐにびしょ濡れ状態になった。

何度もアップダウンが続き、先頭を歩く私は既に疲労困憊だ。胃の調子が悪いのか軽い吐き気もする。またこの雨がこのまま降り続いたら困るよなと悲観的になり、中村サブリダーに「平らな所があったら今日はビバークしよう。水は雨を貯めればいい」と提案するが彼は「こ

の雨は今日もうすぐ止みますよ。とりあえず次のピーク、奥念丈岳まで進みましょうよ」との返事。確かに空は明るくなりかけている。自分を鼓舞して先に進む。

雨が止み掛ける頃、ようやく奥念丈岳山頂に到着した。山頂看板はラミネートされたA4紙が木に縛り付けてあるだけの簡単な物だった。ここから安平路山あんぺいじやまへのルートが分かれているがそちらも道が細そうだ。

雨が上がり、空が明るくなってきた。まだ全員元気だったので今日の予定地である与田切乗越に向かつて不明瞭で猛烈な笹原を下って行く。午後四時四五分、ようやく与田切乗越に到着した。この日は午前四時一五分に空木平避難小屋を出発して一二時間半の長丁場だった。

与田切乗越は事前の情報で得たよりも狭いが笹を押し倒して何とかテントを建てた。その間に中村、山崎両名が水場を下りて行った。しかし「水源が細くて援軍が必要だ。水を受け止める食器も何個か持って行きたい」と言って一旦戻って来た。伊東、諏訪部が加わり四名で笹藪を漕ぎながら下りて行く。だが事前に

ネット情報で得た水場とは景色が違った。もっと大きくてきれいな沢があるはずだった。しかし直に暗くなるので他を探す時間的余裕がない。ちよろちよろ流れているこの水を食器で受けとめ、それをベシヤンコ水筒やPETボトルに移し替えて行く。何とか今夜と明日の行動中の水を確保してテントに戻った。

今夜は前二夜のように水を贅沢には使えないが何とかなるだろう。幸いガスカートリッジは多めに持って来ているのでテント内は暖かく、濡れた衣類も着干しで半分程度まで乾いた。

夜半にまた雨が降り出して翌日の天気心配されたが明け方には上がった。水を節約するために朝食抜きでテントを畳み、最終四日目の行動に移る。

念丈岳への登りは笹がはつきりと刈り払われているが凄まじい急登だ。道の両側の刈り残った笹を掴みながらずり落ちないようにして登って行く。登り着いた稜線の少し先に念丈岳山頂があった。テント一張ほどスペースがあつて泊まれる。見晴らしは良いがここに泊まったら風が強いだろう。ここから上澤新道（登山道を刈り払い再興した人の名。大島山、

本高森山を経て高森CCに至る）が南に下りていたがここも笹に覆われていて道径が細いようだ。

我々は予定通り東に向かい、池ノ平山を目指して進んだ。昨日ほどの猛烈さではないが期待したほど笹の刈り払いには済んでおらず不明瞭な道が続く。

池ノ平山は平坦な笹原に針葉樹が点在する広々とした山頂だった。陽も差して来たのでここでのんびり朝食にした。

烏帽子岳山頂まで来てようやく地元トの登山者に出会った。昨日越百山付近でトラン女性を見掛けて以来の登山者だった。ここからの登山道は良く踏まれていた。烏帽子岳下で出会った地元ベテラン登山者との会話で越百山から烏帽子岳間トは歩く人が極めて少ないことを改めて知った。

今回最後の頂、小八郎岳で下界の展望を楽しんだ後、鳩打峠登山口に降り立った。予約してあったジャンボタクシーに乗って車を駐めてあった駒ヶ根スキー場に向かった。早太郎温泉「コマクサの湯」で汗と雨で自分でも分かるほど匂う身体を洗い、明治亭で駒ヶ根名物ソースカツ丼を食して帰路に就いた。

今回の縦走は私の計画の甘さ（越百山以南の道がこれほど不明瞭だとは想像していなかった）にもかかわらず全員が良く頑張って歩いてくれた。また水の確保がとても大切なことであることを改めて思い知らされた。今回のように営業小屋が殆どない山域では泊地に水場があるかどうかが重要なことである。今回はその日の夕食と翌日の行動中の水を途中の水場で汲み、それを背負って泊地まで歩くと言う計画を立てた（当初は二日目摺鉢^{すりばち}と窪避難小屋泊、三日目池ノ平山泊だった）が実際に歩いてみてそれは無理な計画であると実感し、山中で計画変更した。今後の夏山縦走計画の参考になればと思う次第である。

参加者…諏訪部、中村、仙石、赤堀、

山崎、小嶋、伊東、

小川正（檜尾岳まで）



③

「夏の思い出」

中野 雅章

私のように、月2〜3回、近隣の無理のない山行を楽しみにしている者にとっ

ては、夏場は一年で最も充実した行動範囲の広い企画が組める時でもある。毎年春が来れば夏山をどこに行こうか、いろいろ思索を巡らせる。

そしてこの五年位の間に、静岡県、山梨県、長野県南部の里山・低山は、ある程度行くことができたので、今年の夏山は、思い切ってこの範囲を超えて遠隔地の植生豊かな山にしたいと思い早々に計画を練った。そして至仏山と白山の2座を候補に挙げた。いずれも百名山であり、花の百名山でもあり、書籍・写真・ネット等で繰り返し見ている憧れの山でもある。

7月21日早朝、乗り合いタクシーで鳩待峠に行き山ノ鼻まで下りた。山ノ鼻は、山小屋のほかにキャンプ場、ビクターセンターなどの施設が集まる尾瀬ヶ原西域の拠点になっている。梅雨明けのこの時期、湿原の中に黄色いキンコウカが咲き始めていた。

ここから至仏山東面の登山道に入る。山頂までのコースタイムはおよそ3時間、途中から蛇紋岩が現われ、岩場・鎖場などもあり思いのほか歩きにくい。それでも森林限界が低いためか、登山途中

でも随所に燧ヶ岳の全容を眺めることができた。

更に進み山頂近くの高天ヶ原に近づく頃から木製の階段が現われた。お花畑の中を通過する遊歩道であり、周囲にはバ イケイソウ、タカネナデシコ、シオガマギク属、ウスユキソウ、アズマギクなどが梅雨明けを心待ちにしていたように開花していた。

8時30分、至仏山山頂（2228^{トイ}）に到着した。澄んだ爽やかな青空であった。地形図を取り出して山の名前を調べていると、後ろから中年の男性が近づいてきて「百名山で言うのと、北方向の一部残雪の残る山が平ヶ岳、北東方向に見えるのが尾瀬ヶ原と燧ヶ岳、更に奥に会津駒ヶ岳、南東方向の高い山が日光白根山、その右方向の絶壁の見える山が皇海山、南方向の高い山が武尊山」と教えてくれた。書物・写真で眺めていた北関東・東北の百名山が眼前に一望できて嬉しかった。その親切な心遣いに感謝。山頂で小休止を取った後小至仏山に向かった。

この稜線は蛇紋岩の岩尾根であり、表面がヌルヌルして靴底の摩擦が少なく滑りやすいことで知られている。コースタ

イム以上の時間をかけ丁寧に歩いた。又この地域特有のホソバヒナウスユキソウ、淡紫色のイブキジャコウソウも随所に見られた。そして最後に樹林帯の中を抜けて12時前に鳩待峠に戻った。

次の目的地白山の御前峰は古くから霊山信仰の聖地として仰がれており、標高2450mの室堂には白山比咩神社（しらかやまひめじんじゃ）祈祷殿が、山頂付近には奥宮が鎮まっている。この白山比咩神社は全国に鎮座する白山神社の総本社であり第10代崇神天皇期の創建とされているので、日本で最も古い神社のひとつと思われる。

初日8月5日、石川県白山市の別当出合から入山した。ハクサンと名前の付く植物がいくつも見られように、白山は山全体が植生の宝庫になっているようだ。登り始めは登山道沿いにセンジュガンピが多数あり、それを過ぎた頃からシモツケソウ、セリ科の白い花などが現われた。さらに展望歩道に入ると、良く見慣れた花ではあるが、ミヤマアキノキリンソウ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンフウロ、カワラナデシコ、ヤマハハコなどが群生していた。展望歩道は南竜山荘經由

となるため歩行距離が長く時間を要するが、お花畑と展望に優れた良いコースであった。

昼過ぎに室堂に到着、涼しくなったら御前峰まで往復しようと考えていたが、15時頃から激しい雨と雷を伴う夕立となったので、やむなく部屋に留まった。夕立が去った後祈祷殿を参拝し周辺を散策した。雨上がりの夕刻もすがすがしい。この周辺にもコバイケイソウ、イブキトラノオ、ハクサンフウロが大量に群生しており、背景に祈祷殿と御前峰、別山などを添えた景色が美しかった。

翌8月6日は、早朝御前峰に登り、それからお池めぐりコースを歩いて大汝峰



しらやま ひめじんじゃ
御前峰 白山比咩神社奥宮

山頂に向かった。御前峰までは約40分の登り、山頂に近づくとも最初に目にするのが奥宮である。

この奥宮は、越後の僧泰澄が初登頂に成功した翌年の718年に創建されたとのこと、奈良時代初期のことであり歴史が古い。山頂で、剣岳から穂高連峰まで続く北アルプス主峰を一望した後、尾根沿いにお池めぐりを開始した。

途中男性1名と女性3名が歩くグループと一緒することになった。男性は学者風の高齢者であり、最初の池に近づいたとき、「ここが火口湖で雪溪の雪解け水が溜まった油ヶ池、少し進むと最も大きい翠ヶ池、その先を右に折れると大汝峰、左に直進すると蛇を封じた伝説のある千蛇ヶ池に着く」との丁寧な説明があり嬉しかった。

周囲の植生も今までとは多少異なり、高山植物として有名な、チンゲルマ、イワツメクサ、ツガザクラとアオノツガザクラなどが現われた。しばらく歩いた後お礼を述べて別れ大汝峰に向かった。この山頂には四方を石で囲まれた大汝神社が鎮座している。しかしあたりに人影がなく、また霧も出てきたためか、御前峰

とは異なり静かな霊峰との印象を受けた。

そして漸く下山を開始した。ここから小走りで室堂まで戻り、弥陀ヶ原を突き抜けて黒ボコ岩に至り、砂防新道を経て別当出合に下山した。到着時刻12時40分、まだ時間の余裕はあるが体が疲れていることもあり、市ノ瀬野営場で一泊することにした。

このように私の企画した夏山登山も、幸い天候に恵まれ8月上旬に無事終了した。

村山古道に関する講座

小嶋 香織

6月5日、浜松市積志協働センター主催の講座「富士山最古の登山道 村山古道を知ろう」に参加したので報告します。

講師は日本山岳会静岡支部の西川卯一会員。約20名の受講生と共に聴講しました。

富士山峯入り修行の写真・動画とあわせて村山古道のことを教えてもらいました。江戸時代の「富士山表口眞面之圖」に描かれた登山道が村山道とのこと。今



講演中の西川会員

もある地名や名所をたどりながら聖護院の山伏たちと登っていきます。

海拔0メートル田子ノ浦での水垢離から、海の石を持ってきて富士山登拝前に石を積み上げ安全を祈願した富士塚、現在はコンクリートで固められた立派な富士塚があり、その後は吉原商店街をとおひ、修験ゆかりの地で勤行しながら進みます。

ところどころにある道標、富士根本宮村山神社、馬頭観世音、札打ち場、中宮八幡堂、御室大日堂など、その間には溶岩に苔むした森や台風による倒木帯があり、ひっそりとした森にはヒヨドリバナが咲きアサギマダラが飛び交っていると

か。

廃仏毀釈と新道によって明治期に廃れてしまった村山道ですが、魅力たっぷりの古道であることがよくわかりました。西川さん、積志協働センターの方々、ありがとうございました。

文珠山荘便り

山崎 洋

去る2021年6月12日(土)、文珠山荘にて「ロープワークを学ぶ会」を開催した。例年、この時期に「ヒメホテルを鑑賞する会」という名目で山荘行事を開催していたが、山荘周辺の観察スポットの樹木の伐採が進んだことも影響してか、なかなかヒメホテルと会えないことが多かった。そのため、行事の主旨を変更しての開催となった。

通常通り朝9時に参加者が集合し、山荘に移動。清掃や山荘周辺の整備を終えた後、昼食を取り、まずは山荘内のテーブルの上にロープや器具をずらりと並べる。登山の歴史とともに、エイト環やカラビナなどのギアが進化を遂げ、現在ではBlack Diamond社から登場した「A

TC」(Air Traffic Controller) が広く用いられていることを確認する。また、ハーネスを装着し、ロープを結ぶ方法(フィギュアエイト・フォロースルー)を何回も練習するとともに、ボーライン(ブーリン) ノット、「肩がらみ」などの方法も教わった。

一通り室内での予習が終わったら、実際に外に出て、山荘周辺の高低差を利用し、懸垂下降の練習を行った。最初を選んで場所では、それほど高度がなかったため、実際の登山中に行うものと比較した際の緊張感には及ばなかったが、動作の確認をするには充分だった。



懸垂下降の練習

その後、場所を変更し、より高低差のある段差で、樹木にロープをフィクスし

た上でより実践的な懸垂下降を行った。慣れない動作に、スムーズに降りられないこともあったが、総じて参加会員は動きを再確認し、有益な行事となったと思う。その後は山荘で山の映画を鑑賞し、会員同士の近況を報告しあう談笑の時間となった。来年以降も、登山に関する知識を深める行事を準備できればと考えている。

インスタ開設とHP更新

事務局(一丁担当) 小嶋 香織

静岡支部の会員はここ数年減少傾向にあり3年程で会員数約150人が140人になってしまいました。原因は入会者が少ないためです。どうしたら入会してくれるのか?このままでは当支部の存続にもかかわる事態となってしまう。新支部長からは特に若年層にアプローチしたいとの提言もありました。

まずは日本山岳会静岡支部を知ってもらうことが必要です。最近の若者は#(ハッシュ)タグ検索をしているらしい。それはツイッターやインスタグラム、

フェイスブック等のSNSで利用できるのこと。インスタグラムには多くの山の写真が載っていて投稿者も若くてカッコイイ!山でもおしゃれな若い人が沢山いますよね。そこで、静岡支部でもインスタグラムを始めてみました。皆様もぜひご覧いただくと共に宣伝をお願いします。



●インスタグラムはQRコードを読み取るか「インスタ 日本山岳会静岡」で検索。ホームページも「日本山岳会静岡」で検索してください。

インスタグラムだけでは情報不足なので、引き続きホームページは重要なツールとなります。諏訪部事務局長が長年管理し最近大がかりな更新をしてくれてい

ます。過去の行事はもちろん不盡や記念誌も見ることが出来ます。なお、本部では各支部のホームページのリニューアルに力を入れていくので、当支部も遅れないよう整備していく所存です。会員の皆様には会員減少に歯止めをかけるべく、友人知人らに入会をお勧めくださいますようお願いいたします。

【会員動向】

退会

丹羽 忠昭 (15902)

池谷 和明 (14820)

物故

酒井 忠正 (10702)

新入会員

工藤 裕章 (16778)

新入準会員

青島 吉野 (A0383)

長沼 滋雄 (A0389)

協業 裕 (A0399)

【訂正】

2014年秋季発行「不盡」第76号の記事において、誤りがありました。5頁中段に「沼津の労山（沼駿山の会）の人

たち」とありますが、正しくは、「沼津の労山の人たち」です。即ち（沼駿山の会）を削除します。

労山関係者から「沼駿山の会と言う名の会は存在しない」とのご指摘がありましたので以上のように訂正いたします。

会報原稿及び表紙写真の募集

編集委員会からのお願いです。

会報不盡は皆さんからの原稿で成り立っています。出来るだけ多くの会員からの原稿を募集しています。内容は随筆、寄稿文、個人山行、本の紹介など何でも結構です。字数は、2500～3000字程度です。

表紙の富士山の写真も、募集しています。本号の写真が変わったのに気が付かれましたでしょうか？ 採用の写真は、少なくとも2期は継続して使用させていただきます。奮って応募して下さい。

編集後記

静岡県にも新型コロナウイルスで、緊急事態宣言が発令されて大いに緊張感がありまし

た。それが9月30日迄で解除となり各種行事が徐々に復活しています。私の予定表も×印が少なくなり、空白が埋まっていくので心がときめきます。第6波がどうなるかの心配はありますが、それまでは山を楽しみたいと思っています。

他支部より送られてくる会報に目を通すと参考になることが多くあります。京都・滋賀支部では「やま本を読み紹介する」という集まりの「山書会」が発足し活動をされています。当支部でもこのような企画を考える必要があると思います。が、取り敢えずの目標は、自分たちで印刷原稿を作り上げることと進んでいます。(K・N)

発行者 日本山岳会 静岡支部

支部長 中村 博和

編集責任者 長野 和義

事務局 〒410-2144

伊豆の国市韮山土手和田114-5

諏訪部 豊

印刷所 株式会社 三創

静岡市駿河区中村町一六六一

☎054-282-4031